

静岡県連絡会 NEWS

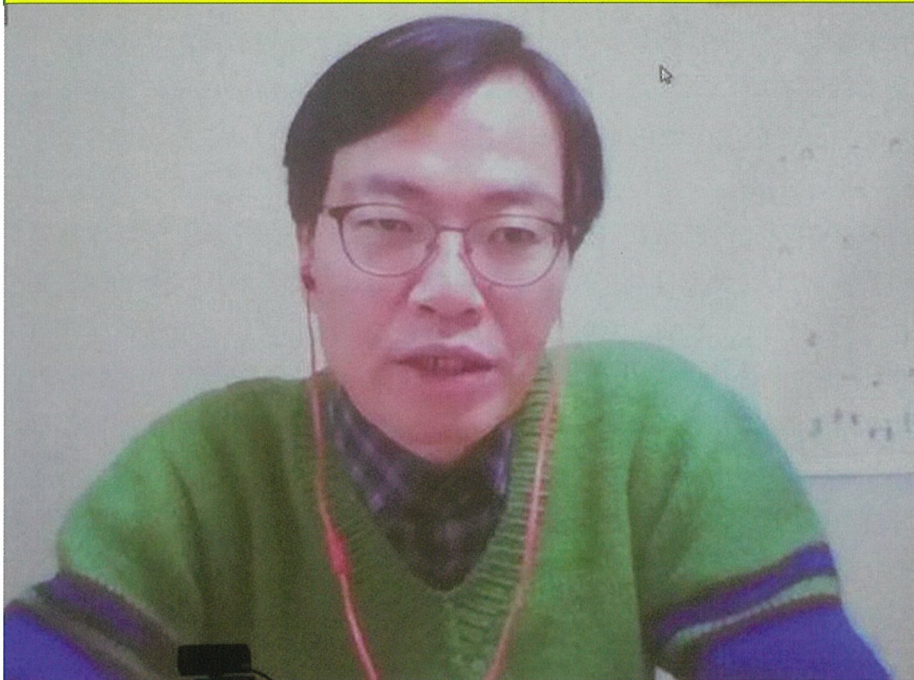
2022年2月25日

事務局 静岡民医連気付 054-287-7355 E-mail : tuyopon_ichigo@yahoo.co.jp

署名推進静岡県連絡会第2回総会&記念講演会が開催されました！

「核兵器禁止の時代」における東アジア非核平和の実現

～朝鮮半島から平和の道を考える 講演と交流の場に！



講演を行うイ・ジュンキュさん 右上は挨拶を行う石原洋輔
県原水爆被害者の会会長 右下は司会を務める藤原玲子さん

核兵器禁止条約の発効から1年を迎えた1月22日、日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名推進静岡県連絡会の第2回総会&記念講演会が静岡市で開催されました。

コロナ禍の中で、会場参加者は限定され予定されていた発言者も急遽文書発言になるなどがありましたが、オンライン参加を含め、韓国のイ・ジュンキュさんの講演と発言・討論によって熱気ある集会となりました。

イ・ジュンキュさんは、3.1ビキニデー集会にも毎年参加していてオンラインを使って皆さんと今日このような意義深い集会に参加することを喜んでいきますと切り出し、現在の世界的動きからお話をすすめました。特にアメリカのヘゲモニー、つまりアメリカが指導している世界秩序が揺れているという現在の戦略構造の話はとて分かりやすく参考になりました。朝鮮半島の平和プロセスが実現すれば米国、中国、日本、韓国などの軍拡競争にも大きな影響を与えることができると述べ、これからの活動、目指すべき方向も示していただいた内容でした。

参加者からの発言では、西部勝子さん（新日本婦人の会県本部）、山田和仁さん（県生協連）、渡辺正寿さん（県平和委員会）が署名の取り組みと決意を述べ、コロナ禍で参加出来なかった堀内洋子さん（御殿場女性の会）からは文書発言がありました。閉会挨拶は稲垣滋彦県生協連会長が行いました。

連絡会のよびかけ人代表の一人である石原洋輔県原水爆被害者の会会長が冒頭挨拶で、核兵器廃絶の流れは確実にすすんでいると述べ、署名目標を達成し平和の流れをつくるため力を合わせようと呼びかけました。

「核廃絶を願う御殿場女性の会」からの報告

第2回静岡県連絡会総会おめでとうございます。

「核廃絶を願う御殿場女性の会」から報告をさせていただきます。

私たちは、「すべての子どもたちに核兵器のない未来を」という思いから2010年のNPTニューヨーク行動に参加することを決意し、当地の市議会議員のサポートも受けて市長との懇談を行いました。私たち4名が参加すること、署名へのご協力、ご支援をお願いしたいこと等を伝えました。

市長は共感を示し「核兵器廃絶の署名は誰もが賛同できる内容」と署名への協力と激励の言葉を戴き大いに勇気づけられ、その後の運動に弾みがつきました。

市商工観光課では「ぜひ御殿場の宣伝もしてきて！」と観光リーフレットや絵はがき等を預かり、ニューヨークで市のハッピーを着てパレードや署名活動を行いました。私たちは地域での署名活動をさらに大きく広げ、最終的に市人口の1割に相当する人々から寄せられた9242筆の署名を国連本部に届けることができました。

当時の具体的な活動では、「国際署名『核兵器のない世界を』への協力のお願い」の書面をそれぞれの団体宛てに作り、約40団体を訪問して直接お願いをし、ある団体では会議の場で訴えもさせていただき、JA、消防署等の他、地域の商店、美容院、かかりつけ医院、教会、寺院等宗教関係者の訪問も含め、でき得るすべてのことを行いました。40数団体の訪問に足を踏み出すのはとても勇気がいりましたが、被爆者の思いや、子どもたちの未来を想いながら心を込めて訴えました。ニューヨークには富士山と30数人の子どもたちが描いた「ぼくの顔、わたしの顔」横断幕を持参し、この4mの横断幕が現地で大活躍しました。帰国後は、報告冊子を作成し市長をはじめ協力を戴いた団体、地域の商店等にお礼と共に届け、地域で報告会も行いました。地域活動では「女性の会」メンバーの地域の人々とのつながりが大きな力になりました。

2016年には、被爆者自身が「後世の人が生き地獄を体験しないように生きているうちに何としても核兵器のない世界の実現を」という思いから始めた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶の国際署名」の協力のお願い、そして昨年2月の「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」の協力についてなどその折々に市長と懇談を行い、協力を要請してきました。そして、昨年6月、「日本政府に核兵器禁止条約の批准・署名を求める署名」の受け渡し式では「職員が家族、友人、知り合いにまで広げてくれた」と市長から1491名分の署名を戴きました。これらの活動は「女性の会」のみでは出来なかったと思います。



堀内洋子さん



当時の市長から職員から集まった署名を受け取る女性の会

議会内では、共産党議員の長年に亘る平和への質問、提案などの積み重ねがあり、市民団体である平和委員会、9条の会、新日本婦人の会等々の地道で継続した市民活動が続けられてきました。市当局や議会の協力（毎年の平和行進、3・1ビキニデー等への激励）と地域の人々とのつながりによって成し得たと考えています。行政ではトップである首長の決断が大きいのではないのでしょうか。首長に平和の課題の大切さを、様々な機会をとらえて訴え、理解してもらい働きかけが必要です。今後は若い人たちにも加わっていただき、地域の人々と一緒に草の根の運動をコツコツと積み重ねていきたいと思っています。